

メッセージ：イエス様とともに歩むことは、神が私たちが愛してくださったからこそ、クリスチャンを愛することである

OICの皆様、おはようございます。ようこそ神の家へ来られました。皆様を歓迎いたします。

今日は、引き続き使徒ヨハネの第一の手紙の意味を一節ずつ解釈して明らかにしていきます。聖書全体が聖霊様によって書かれたものです。これまでの使徒ヨハネの手紙第一からのわたしのメッセージで、ヨハネのクリスチャンに対する教えの意味を引き出そうとしてきました。これは、イエス様と共に親密に歩むことによって、クリスチャンが神様の御心を行えるようにするためでありました。このヨハネの手紙第一でヨハネがこれまで語ってきたことを5つのことに要約しました。：

1. 光の中を歩み、罪を犯さないこと 1章から2章2節
2. 愛のうちに歩むこと、特に仲間のクリスチャンを愛すること 2章2節から2章14節
3. 神様を望み、聖い(きよい)心とともに歩むこと 2章15節から25節
4. 全てのことを教えてくださる聖霊様と共に歩むこと 2章26節から3章9節
5. クリスチャンの愛の歩みは良い働きによって示されなければならないこと 3章11節から23節

そして、今日わたしはこれを加えます。-

6. 神様が私たちが愛されたからこそ、クリスチャンの愛で歩むこと

先週のメッセージは<ヨハネ第一の手紙 3章 23節>で終わりました。

<ヨハネ第一の手紙 3章 23節>

その戒めというのは、神の子イエス・キリストの御名を信じ、わたしたちに命じられたように、互に愛し合うべきことである。

ヨハネは短い一節の中で、クリスチャン生活の基本を次の二つに要約しています：

- 1) 御子を信じなさいという父なる神様の戒めに従えば、罪人はクリスチャンになるということ

2) 互いに愛し合いなさいと神様が戒められた、その神様の御子に従うことは、クリスチャンがイエス様と親密に歩むために必要なことであるということ

このことは次の節に示されています、

＜ヨハネ第一の手紙 3 章 24 節＞

神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。

それからヨハネはクリスチャンの歩みを＜ヨハネ第一の手紙 3 章 24 節＞に要約しています。

＜ヨハネ第一の手紙 3 章 24 節＞

神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜った御霊によって知るのである

ヨハネは、神様との交わりを保つには、神様の命令に従うかどうかにかかっている、と言っているのです。そしてヨハネは、イエス様が与えてくださった御霊なる聖霊様が私たちの内に住んでおられるからこそ、イエス様が私たちの内に住んでおられるという、祝福に満ちた確信も付け加えています。神様の戒めとは、クリスチャン生活の焦点や目標としての律法を意味するのではないということ覚えていてください。私たちが罪を犯さないように、つまり神様の戒めを破らないように導くのは、神様が私たちに与えてくださった御霊なる聖霊様です。そしてまた、私たちの行動によって神様に喜びをもたらすことに積極的になるようにもしてください。

＜ローマ人への手紙 8 章 14 節 NASB1995＞

すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。

クリスチャンは成熟し、御霊なる聖霊様が自分の内側に住んでいてくださり、そして、御霊なる聖霊様は単にクリスチャンを取り巻く世界の力ではないことを理解するようになります。

次に、使徒ヨハネはこの 1 世紀のクリスチャンたちに、偽預言者という教会にとって本当に危険な存在について警告しています。彼はまた、偽預言者を見分ける方法、つまり偽預言者の存在を知る方法についても語っています。

＜ヨハネ第一の手紙 4 章 1 節＞

愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。

ヨハネは、彼の手紙を受け取った教会にいるグノーシス派の異端者たちに再び焦点を当て、または指摘しようとしています。グノーシス主義者の主張は何かをみなさんに思い起こさせます。--- それはすべての霊は善であり、そして全て物質的なものは悪であるという主張です。したがって、イエス様が善良であるならば、肉体をもって来られるはずがないと主張しています。この偽預言者に対する警告は、イエス・キリストが再臨されるまでの間ずっと、教会に対するより一般的な警告であります。わたしたちは<ヨハネ第一の手紙3章9節>で見ました。

<ヨハネ第一の手紙3章9節>

すべて神から生れた者は、罪を犯さない。神の種が、その人のうちにとどまっているからである。また、その人は、神から生れた者であるから、罪を犯すことができない。

ヨハネは特に反キリストとあらゆる種類の異端者について警告していました。すなわち、これらの人々は明らかに反キリスト的な生き方を示していました。それがクリスチャンが彼ら进行评估し、判断する方法なのです。しかし.....偽預言者はもっと人を欺き、見分けるのがさらに難しいです。ヨハネはクリスチャンに、彼らの「霊」を見分けるように教えています。このことは、彼らが反キリストのような明らかな罪深い生き方を示さないかもしれないことを示しています。近年、クリスチャンが彼らのライフスタイルを判断できない理由のひとつに、インターネットで「教会に来る」ことが多いことが挙げられます！誰かが預言者であると主張するとき、クリスチャンはその召命に対して敬意を感じるべきです。しかし、そうであっても、ヨハネが<ヨハネの手紙4章2節-3節>で教えているように、私たちは彼らが持っている霊が神から来たものであるかどうかを試すようにしなければなりません。

<ヨハネの手紙4章2節-3節>

あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ているものであり、イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねてから聞いていたが、今やすでに世にきている。

だからヨハネは、神様を知る真の方法は、人間の肉体をもって来られたイエス様を知ることではないことを教会に思い起こさせているのです。だから、誰かが真の預言者であるかどうかを知るためにも、イエス様についての真実を信じているかどうかを尋ねるのです。OICで歌っている賛美歌にあるように、「イエスよ、あなたを知ること、あなたを知ること、これ以上のものはありません!」。イエス様を知ること、神様を知ることなのです。

☆覚えておいてほしいこと #1 クリスマス・シーズンについて

イエス様のニュース

<ヨハネの福音書1章14節>

そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。

罪人がクリスチャンになるためには、イエス様が100%神様であり、同時に100%人間でありながら罪がなかったことを信じなければなりません。クリスマス・シーズンは、イエス・キリストが赤ん坊として肉体でこの世に来られたことを祝う時期として始まりました。この季節が近づくにつれ、私たちはこの輝かしい事実を友人や隣人と分かち合う機会があるかもしれません。.... それはいのちの言葉であるイエス・キリストが、現実の肉体をもって私たちの前に現れたことです。

次の節<ヨハネ第一の手紙4章4節>

子たちよ。あなたがたは神から出た者であって、彼らにうち勝ったのである。あなたがたのうちにいますのは、世にある者よりも大いなる者なのである。

英語を母国語とする多くの人、古い欽定訳聖書<ヨハネの手紙第一4.4/KJV21>のこの節を聞いたことがあるでしょう。

古い欽定訳聖書<ヨハネの手紙第一4.4/KJV21>

イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねて聞いていたが、今やすでに世にきている。

ヨハネは、初代教会がいかに偽預言者たち、異端者たちに勝利したかを肯定していました。もちろん、聖書には素晴らしい忠告や励ましがあります。

<ピリピ人への手紙 4章4節>

あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。

世界はもはや反キリストの霊を持っていないかのように装うことを、神様は意図していません。つまり、私たちにはまだ彼らとの戦いと勝利が残されているということです。...

1世紀の教会が勝利したように、私たちも勝利します。

<ヨハネ第一の手紙 4章4節>

あなたがたのうちにはいますのは、世にある者よりも大いなる者なのである。

☆覚えておいてほしいこと #2

日常生活のストレスから、クリスチャンはしばしば、すでに天国にいるごとく幸せになりたがっています。まあ、まだ私達は天国ではありません！私たちの信仰を邪魔する「偽預言者」や異端者が周囲にいるのです。見せかけではなく、使徒パウロが持っていたような信仰が、私たちをいつも主にあって

<ピリピ人への手紙 4章4節>

あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。

喜びに満ち溢れた者とするのです。私たちがイエス様の中において、イエス様が私たちの中においてくださるといふ祝福された確信が、あらゆる外的な状況や疲弊した試練に打ち勝つ真の喜びをもたらします。使徒パウロがローマの獄中でこの喜びの節を書いたことに注目してください。しかし、あなたはこう言うかもしれません。：Bruce 牧師、私はそれほどの大きな信仰がありません！ まあ、私もそれほどの大きな信仰はあると思いません。でも、自分が幸せを感じるために、聖書の教えに反することをするつもりはありません。

<ヨハネ第一の手紙 4章5節>を読みましょう：

彼らは世から出たものである。だから、彼らは世のことを語り、世も彼らの言うことを聞くのである。

多くの「偽預言者」は、ニュースやソーシャルメディアで「専門家」として登場するだけです。最近、世界の未来について預言者のような役割を果たす人々の話を聞かずに情報を得ることは難しいです。彼らは自らを「預言者」とは呼ばないかもしれませんが。しかし、ニュースの多くのトピックは宗教的な意味を持ち、世界の反キリスト霊を示しています。「ライフ・アプリケーション・バイブル」から異端について引用しましょう：
どんなトピックについても、宗教教師の言うことを受け入れる前に、彼らがイエス様について何を信じているかに注意深く耳を傾けてください。キリストの神性も人間性も否定することは、キリストを救い主ではないとみなすことです。

そして<ヨハネ第一の手紙4章6節>を読みましょう。

しかし、わたしたちは神から出たものである。神を知っている者は、わたしたちの言うことを聞き、神から出ない者は、わたしたちの言うことを聞かない。これによって、わたしたちは、真理の霊と迷いの霊との区別を知るのである。

使徒ヨハネはここで、真のクリスチャンは「私たち」に耳を傾けると述べています。彼の言う「私たち」とは、イエス様の最初の使徒達と、彼らが弟子となり教えた人々だけを指しているのでしょう。「イエス様を主とする」と告白している教会によって承認された宣教師、牧師、教師、そして指導者を含め任命されたクリスチャンの指導者を今日の教会では、「私たち」と呼ぶかもしれません。イエス様をもっと知りたい、聖書をもっと知りたい、聖霊様をもっと知りたいと切望する心を持つクリスチャンは、神様を知る人々となり、任命されたクリスチャン・リーダーに耳を傾ける人々となるでしょう。しかし、親愛なるOICの聖徒のみなさん、神様を知っているすべての人々が、耳を傾ける「心を持つ」すべての人々が、同じ理解力を持つわけではないことに注意してください。以前にも説教したことがあります。私たちがイエス様のぶどうの木の実であるように、神様はすべての子どもたちが成長することを望んでおられます。しかし、ある者は他の者よりも早く成長します。先週の牧師 Andrew Miller が言った言葉は良かったです。：“皆さんはクリスチャンになった個人的な証を持っています。もしかしたら、あなたの聖書知識は少なく思えるかもしれませんが。しかし、誰も、そして何ものも、あなたからその証を奪うことはできません。”彼はまた、あなたがたの証がイエス様を見ることによって死から栄光へとどのようにもたらされるかを説きました。特に、イエス様に対する学びが遅いと自分で判断している人は、このことを覚えておいてください。神様は頭脳もさることながらあなたの心をご覧になっています。

さて、ヨハネはクリスチャンに対するイエス様の互に愛し合う戒めを繰り返しています。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 7 節>

愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生まれた者であって、神を知っている。愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

クリスチャンになりたての信者だった私自身、これはとても簡単なことのように思えました。私は、アメリカの教会で多くの人がそうであったように、欽定訳のヨハネ第一の手紙から歌った曲を学びました。{愛する者よ、互いに愛し合おう、愛は神のものであり、愛する者は皆、神から生まれ、神を知る。神を愛さない者は神を知らない。神は愛なのだから。愛する者たちよ—互いに愛し合おう—第一ヨハネ四章七節と八節” } しかし、私がクリスチャンとして成長するにつれて、この単純な戒めは、私を決して愛し返さないようなクリスチャンもいたので、私の古い罪深い性質との闘いと、愛に対する疑念を示しました。まあ、イエス様のためにクリスチャンを愛するのが私の仕事だ！ そう、難しくなればなるほど、私たちはイエス様の戒めに従い、困難な状況下でも愛し続けなければなりません。そうすることで、愛の力がより明らかになります！ 聖書が<コリント第一の手紙 13 章 8 節/NASB1995>で言っているように

<コリント第一の手紙 13 章 8 節>

愛はいつまでも絶えることがない。

そしてもちろん、私たちは<ヨハネ第一の手紙 4 章 7 節>の「愛」の力について考えます。これは、「愛は神から来る」ということを教えています。そして<ヨハネ第一の手紙 4 章 8 節>は「神は愛である」と教えています。神様以上の力はどこにもありません。8 節もまた私達にこう教えています。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 8 節>

愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

私たちクリスチャンは、一貫して互いに愛し合うことに欠けているかもしれません。しかし、私たちは神様を喜ばせ、愛において神様のようになるために祈り続けることができます。そして、神様は私たちに愛を注ぎ続け、他の人たちにも与え、そして実際、神様も愛し返せるようにしてください。私たちはロボットではありません。というのは、私たちは愛することも、愛さないことも選択できるからです。ノンクリスチャンは、特に、愛

することに自分にとって何の利益も見出せないとき、真に愛することはできません。彼らは友人や国家のために命を投げ出すことさえしながら、愛の行動をするかもしれません。奇妙に聞こえるかもしれませんが、それは一貫して互いに愛し合う、あるいは敵を愛することではありません。日常の葛藤の中で、その一貫した愛には本当に超自然的な愛が必要なのです。それは神様からのみもたらされるものです。クリスチャンには、神様ご自身という無限の愛の源があります！

愛の定義...

<ヨハネ第一の手紙 4 章 9 節>に

神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

その「明らかにされた」という動作動詞は、ギリシャ語新約聖書 (NTG) の原文では phaneroō です。phaneroō は「明るみに出す」、「明瞭な光に照らす」、「現す」、「表示する」という意味です。神様がひとり子の御子をこの世に遣わされたことで、人類に対する神様の愛が、誰の目にも**明らかな光**となったのです！ イエス様、それは永遠の命の贈り物であり、人間の肉体を持つ神様です！

<ヨハネ第一の手紙 4 章 10 節>

わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

天国から見た世界を想像してみてください。それは罪の丸い地球です。神様は天地を揺るがすほどの激しさで罪を憎んでおられます。しかし、それは 2000 年少し前のことです。神様はその真ん中にすばらしいものを送り込もうと計画します。みなさんは原爆の弾頭を搭載したスピリチュアルなロケット船のような裁きの天使が、この憎悪と汚物の邪悪な塊を一度の大爆発で破壊してくれると期待するかもしれません。しかし神様は・・・神様はそれを救うためにひとり子イエス様を遣わされました！信じられますか？!!! ...これが本当の愛です。

リビングバイブルは、罪に対する神の憎しみの強さを、次のように捉えています。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 10 節/TSB>

神に対する私たちの愛ではなく、私たちに対する神の愛によって、私たちの罪へのなだめとして、神のひとり子が遣わされました。ここに真の愛があるのです。

この行為 {イエス様は人間の赤ん坊として地上に来られた。} それは私たちの神様への愛ではなく、私たちの罪に対する神様の怒りを満たすために御子を遣わされた神様の私たちへの愛なのです。イエス様がどのように神の怒りを満足させたかは、原文 (NTG) ではより明確にされています。… 神様は御子を私たちの罪のための *hilasmos* として、つまり私たちの罪のための血のいけにえとして遣わされました。*Hilasmos* とは、神の怒りを鎮めるための血の犠牲を意味します。罪に対する神の怒りは、*Hilasmos* (血の犠牲) によってのみ鎮められ、または、償われます。

罪に対する神の義の怒りの激しさは、使徒パウロが<ローマ人への手紙 1 章 18 節-20 節 /TLB>で明確に説明しています。

<ローマ人への手紙 1 章 18 節-20 節>

神の怒りは、不義をもって真理をはばもうとする人間のあらゆる不信心と不義とに対して、天から啓示される。なぜなら、神について知りうる事がらは、彼らには明らかであり、神がそれを彼らに明らかにされたのである。神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。

☆覚えておいてほしいこと #3

私たちの罪は、罪に対する神様の義なる怒りを鎮めることによるのみ取り除かれるのです。そのためには完全な血の犠牲が必要であり、罪のない神様の子だけが十字架上でそのような完全な犠牲を成し遂げることができました。イエス様は喜んで父なる神様に従い、私たちのために来て、そのような犠牲を払ってくださいました！神様は罪、ひいては人類を滅ぼすために破壊の天使を遣わしませんでした。その代わりに、私たちを救うために愛する御子イエス様をお遣わしになりました！

そう、神が御子イエス様において私たちに愛を送られるまでは、人類はそのような愛を持つことができませんでした。私たちはそのような愛を説明することも理解することもできません。しかし、神様の恵みによって、私たちはその愛を受け取り、他の人たち、キリストにある兄弟姉妹、そして神様にその愛を捧げることを学ぶことができます！<ヨハネ第

1の手紙4章9節-10節/LAB-TLB>の脚注にある次の引用は、考え、黙想する価値があります：

愛の説明：

1. 神様はなぜ創造されるのか - 神様が愛しておられるからこそ、神様は人を愛するように創られる；
2. 神様はなぜ気かけられるのか - 神様は彼らを愛しておられ、罪深い人々を気にかけておられるから
3. なぜ私たちクリスチャンは自由に選択できるのか - 神様は私たちからの愛に満ちた応答を望んでおられる
4. キリストはなぜ死なれたか - 私たちへの神様の愛が、罪の問題の解決を求めさせた
5. 私たちはなぜ永遠の命を受けるのか - 神様の愛は永遠に私たちに神様の愛を示される！

そして次に、このメッセージの最後を、次のように締めくくります。

<ヨハネ第一の手紙4章11節>

愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。

祈りましょう、そして愛なる神様に感謝しましょう、……

皆様、本日はOIC、OIC教会へ来てくださりありがとうございます。互いに愛し合いましょ